

日本炭田図 XI

石狩炭田地質図 付記

石狩炭田地質図編集について

昭和 48 年

地 質 調 査 所

日本炭田図 XI

石狩炭田地質図 付記

この地質図は 多色刷地質図 上・下各1 オーバーレイとして石狩炭田採掘および探査概況図 上・下各1 計4面で構成されている。

石狩炭田地質図編集について

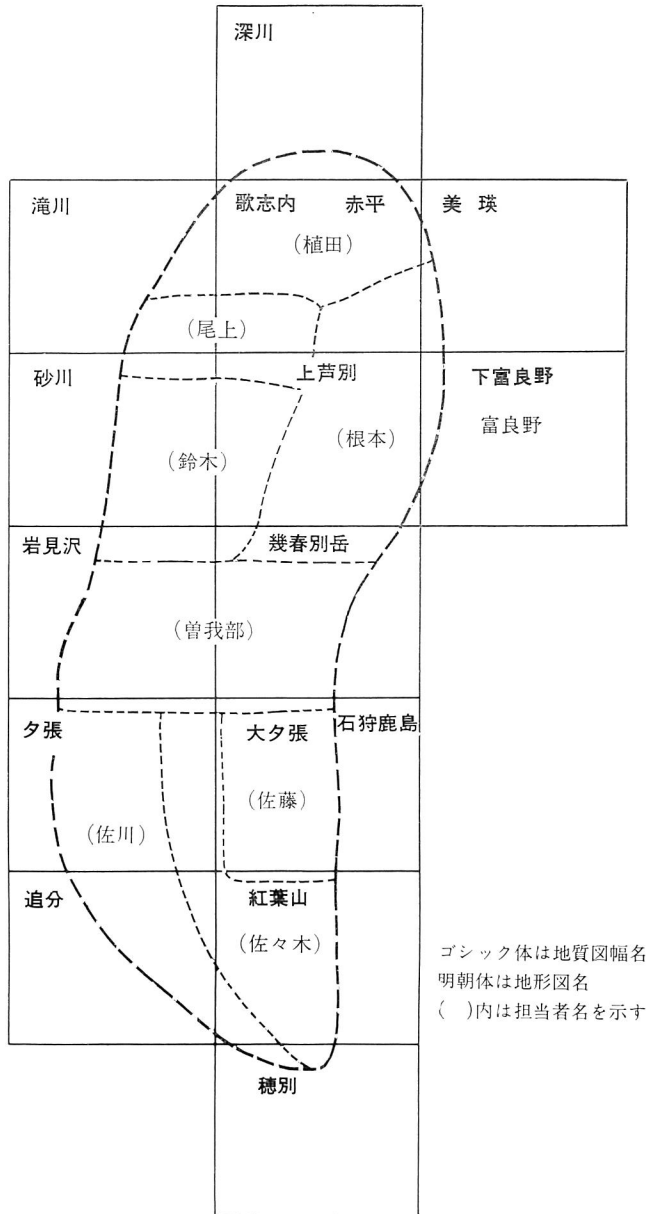
昭和48年

地 質 調 査 所

北海道石狩炭田は、かねてから石炭資源的にも、また古第三系の模式的発達地としても知られている。またわが国での最重要炭田としての価値をもっており、それは現在に至るまで変っていない。

とくにわが国でも、最も組織的にいち早く調査がすすめられたところであり、現在までに数多くの地質図幅が作成されている。

第1図 編集分担区域図



第1表 地質図幅調査状況一覧表

図幅名	縮尺	調査者	発行年	
			図幅	説明書
深川	1:50,000	鈴木 醇	1953	
滝川	"	小林勇・垣見俊弘・植村武・秦光男	1957	
歌志内	"	河野義礼・松井和典・清水勇	1956	
美瑛	"	鈴木守・渡辺順・春日井昭	1964	
砂川	"	松井寛・垣見俊弘・根本隆文	1965	
上芦別	"	清水勇・田中啓策・今井功	1953	
下富良野	"	橋本 亘	1955	
岩見沢	"	松野久也・田中啓策・水野篤行・石田正夫	1964	
幾春別岳	"	吉田 尚・神戸信和	1955	
夕張	"	佐々保雄・田中啓策・秦光男	1964	
大夕張	"	長尾捨一・小山内熙・酒匂純俊	1954	
追分	"	松野久也・秦光男	1960	
登川	1:100,000	根本忠寛・三木杉巳代治・水口文作	1940	1942

また、この地域には、数多くの炭鉱が存在し各自鉱区内の調査も精細なものが多く貴重な調査結果が山積している。

このような貴重な地質諸資料を総括編集し、とくに石炭地質学の立場から利用しやすく、見やすいようにし、さらに最近の新しい資料によって検討することは有意義であると考えられる。従って今回これを編集し発行することにした。

第2表 編集調査状況一覧表

年度	担当者氏名	調査期間	調査地域	
			市村町名	関連炭鉱名
42	河野迪也・鈴木泰輔 曾我部正敏	42・5・20～5・29	夕張市・歌志内市・芦別市	三井芦別・三菱芦別・高根・柏(旧茂尻)・豊里・
	佐々木実・佐藤良昭	42・7・13～8・5	夕張市・岩見沢市・三笠市・夕張郡・空知郡	住友赤平・北炭空知・北斗・住友歌志内・三井砂川・三省・石狩・第一奈
	曾我部正敏・佐川昭	42・7・20～8・10	三笠市・岩見沢市・美唄市・夕張郡	井江・美唄常盤・美唄・三美(旧三井美唄)・住友
	根本隆文・大嶋和雄	42・7・20～8・10	芦別市	奔別・北炭幌内・北星・
	坊城俊厚・鈴木泰輔	42・8・9～8・31	砂川市	朝日・万字・三菱大夕張・新二股・北炭夕張・北
	佐々木実	42・9・15～10・7	夕張市・夕張郡・勇払郡	菱鹿島
	坊城俊厚・尾上 亨	42・10・15～10・31	赤平市・歌志内市・砂川市 空知郡	

43	鈴木泰輔・尾上 亨	43・6・17～7・10	砂川市	北振・北菱芦別・明治上 芦別・旭・油谷・西熊ノ 沢・豊沼・滝口・異人沢 ・上村・北菱我路・新三 笠・北海栗沢・伊藤・千 歳・松島・三菱南大夕張 ・平和・清水沢・真谷地
	根本隆文・大嶋和雄	43・6・28～7・19	芦別郡・赤平市	
	曾我部正敏・佐川昭	43・6・28～7・19	三笠市・夕張郡・岩見沢市	
	佐々木実・佐藤良昭	43・7・18～8・5	夕張市・芦別市	
	佐川 昭・根本隆文	43・8・19～9・7	夕張市	
	植田芳郎・井上英二 中尾征三	43・9・5～9・28	滝川市・芦別市・歌志内市	
	徳永重元	43・9・11～9・17	滝川市	
坊城俊厚	43・9・12～9・28	滝川市		
44	中尾征三	44・6・29～7・22	芦別市	空知炭鉱赤間鉱
	徳永重元	44・6・30～7・10	芦別市・夕張市	
	佐藤良昭・植田芳郎	44・8・27～9・10	滝川市・芦別市	
	中尾征三	44・9・11～10・4	芦別市	

編集のための地質調査は、昭和42年から44年にかけて行なわれたが、その間関係する炭鉱諸会社および関連研究機関、さらに当所内の諸資料を引用させて戴いた。これら関連機関等については別表に示してあるが、とくに関連諸機関および各研究者の御厚意に対しては、深く感謝する次第である。

また編集のための地質調査に当っては、上記各関連機関の御協力・御援助をうけたことは多大であって、これなくしては、この図は完成しえなかった。

第3表 資料提供炭鉱一覧表

会社名	炭鉱および 鉱業所名	縮 尺		坑内図・その他	備 考
		地 質 図	断 面 図		
北 菱 産 業	我 鹿 路 島		1 : 3,000	1 : 50,000 1 : 50,000	
明 治 鉱 業	上 芦 別	1 : 10,000	1 : 10,000		
三 菱 鉱 業	芦 別	1 : 20,000		1 : 50,000	
	大 夕 張	1 : 20,000	1 : 20,000	1 : 50,000	
	南 大 夕 張	1 : 20,000	1 : 20,000		
	美 唄	1 : 10,000 1 : 20,000	1 : 20,000	1 : 50,000	
	美 唄 常 盤			1 : 50,000	
三 井 鉱 業	芦 別	1 : 10,000	1 : 10,000	1 : 50,000	
	砂 川	1 : 50,000 1 : 20,000	1 : 20,000	1 : 50,000	
	三 美 (旧三井美唄)	1 : 50,000 1 : 20,000	1 : 50,000 1 : 20,000	1 : 50,000	

	油 谷			1 : 50,000	
	高 根	1 : 5,000	1 : 5,000		
旧雄別炭礦	柏 (旧茂尻)	1 : 10,000 1 : 5,000	1 : 10,000		
	豊 里	1 : 20,000	1 : 20,000	1 : 50,000	
住友鋳業	赤 平	1 : 20,000	1 : 20,000	1 : 20,000	
	歌 志 内	1 : 20,000	1 : 20,000	1 : 50,000	
	奔 別	1 : 20,000	1 : 20,000	1 : 50,000	
	西 熊ノ沢			1 : 50,000	
北海道炭礦 汽 船	空 知	1 : 20,000	1 : 20,000	1 : 50,000	} 北炭地質調査所の編 集図による。
	幌 内	1 : 20,000	1 : 20,000	1 : 50,000	
	夕 張	1 : 50,000	1 : 50,000	1 : 50,000	
	平 和	1 : 50,000	1 : 50,000	1 : 50,000	
	清 水 沢 真 谷 地	1 : 50,000 1 : 50,000	1 : 50,000 1 : 50,000	1 : 50,000 1 : 50,000	
	北 斗	1 : 5,000	1 : 5,000	1 : 5,000	
三省鋳業	三 省			1 : 5,000	
	石 狩 第一 奈井江 上 村	1 : 20,000 1 : 5,000	1 : 20,000	1 : 50,000 1 : 50,000	
北星炭礦	新 三 笠 北 星	1 : 10,000		1 : 50,000 1 : 50,000	旧北炭唐松炭礦
朝日炭礦	朝 日	1 : 5,000	1 : 5,000	1 : 50,000	
	北 海 栗 沢 伊 藤 万 字			1 : 50,000 1 : 50,000 1 : 50,000	
角田炭礦	新 二 股			1 : 50,000	
	千 歳 松 島			1 : 50,000 1 : 50,000	
新夕張炭礦	北 夕			1 : 50,000	
石油開発公団			1 : 50,000		基礎試錐「空知」報告会 地質柱状資料による

石狩炭田の地質については、まだ多くの問題が含まれており、未解決の事項も少なくない。

従って本図は現時点における、一応のまとめというように受取って戴ければ幸いである。

なお、石狩炭田の地質に関する参考文献を末尾に掲げたが、これらの研究内容についても参照させて戴いた。この他にも多くの研究調査結果があることを付記する。

また石狩炭田に関する諸問題、とくに編集地質調査中に認められたものについては、別途整理しこれを他日提示する予定である。

参 考 文 献

- 1) 浅野 清(1954) : 古石狩海における有孔虫群の変遷. 地質学雑誌, vol. 60, no. 701.
- 2) ASANO, K. (1952) : Paleogene Foraminifera from the Ishikari and Kushiro Coal-field, Hokkaido. *Short Paper. IGPS., no. 4.*
- 3) 相原安津夫(1965) : 石狩炭田砂川地区における美唄夾炭層の炭層変化にみられる方向性と相関性に関する鉱山地質的研究. 鉱山地質, vol. 15, no. 5
- 4) 相原安津夫(1967) : 石狩炭田における地質構造の発展過程について. 佐々教授記念論文集.
- 5) 相原安津夫(1971) : 石狩炭田砂川地区における登川夾炭層の炭層変化にみられる方向性と相関性に関する地質学的研究. 鉱山地質, vol. 21, no. 4.
- 6) 藤岡一男(1941) : 石狩炭田紅葉山附近の所謂中間層に就いて. 矢部教授還暦記念論文集, vol. 2.
- 7) 橋本 亘(1955) : 5 万分の 1 地質図幅「下富良野」, および同説明書. 62p., 北海道開発庁.
- 8) 橋本 亘・下河原寿男・菅野三郎・手島 淳・大原 隆(1963) : 紅葉山層に関する諸問題. 化石, vol. 5.
- 9) 秦 光男・松野久也(1961) : 夕張炭田西縁の新第三系. 地質調査所北海道支所.
- 10) HAYASAKA, I. and S. UOZUMI, (1954) : Molluscan Fauna of the so-called "Momijiyama Transitional Formation." *Jour. Fac. Sci. Hokkaido Univ., Ser. 4, vol. 8, no. 4.*
- 11) 本多仁磨(1967) : 石狩炭田南部のサヌシュベ根無山塊について. 佐々教授記念論文集.
- 12) 今井半次郎(1924) : 石狩炭田に於ける白堊紀層と夾炭第三紀層(石狩統)との層位的関係. 地質学雑誌, vol. 31, no. 364.
- 13) 今井半次郎(1924~1925) : 石狩炭田に於ける夾炭第三紀層(石狩統)の層位地質学的研究. 地学雑誌, vol. 36~37, no. 421~431.
- 14) 菅野三郎・小川 久(1962・B) : 北海道紅葉山一滝ノ上付近の地質と化石軟体動物群について(演旨). 地質学雑誌, vol. 68, no. 802.
- 15) 小林 勇・他 3 名(1957) : 5 万分の 1 地質図幅「滝川」, および同説明書. 北海道開発庁.
- 16) 小島光夫(1955) : 北海道石狩炭田空知地区平岸北部地域調査報告. 地調月報, vol. 6, no. 5.
- 17) 河野義礼・他 2 名(1956) : 5 万分の 1 地質図幅「歌志内」, および同説明書. 北海道開発庁.
- 18) 松井 寛(1960) : 上部石狩層群の堆積過程における豊里堆と芦別沈降盆地. 地調報告, no. 185.
- 19) 松井 寛・垣見俊弘・根本隆文(1965) : 5 万分の 1 地質図幅「砂川」, および同説明書. 85p., 地質調査所.
- 20) 松井 愈(1950) : 紅葉山層について. 新生代の研究, vol. 4.
- 21) MATSUMOTO, T. (1942~1943) : Fundamentals in the Cretaceous Stratigraphy of Japan, Part 1, 2 and 3. *Mem. Fac. Sci. Kyushu Imp. Univ., Ser. D, vol. 1, no. 3 & vol. 2, no. 1.*
- 22) Matsumoto T. (1959) : Zonation of the Upper Cretaceous in Japan. *Mem. Fac. Sci. Kyushu Univ., Ser. D, vol. 9, no. 2.*
- 23) 松野久也・秦 光男(1956) : 追分層から *Cyclammina Japonica* ASANO の産出について. 北海道地質

要報, no. 31.

- 24) 松野久也・秦 光男(1960) : 5万分の1地質図幅「追分」, および同説明書. 北海道開発庁.
- 25) 松野久也・石田正夫(1960) : 5万分の1地質図幅「早来」, および同説明書. 北海道開発庁.
- 26) 松野久也・田中啓策・水野篤行・石田正夫(1964) : 5万分の1地質図幅「岩見沢」, および同説明書.
北海道開発庁.
- 27) 三田正一(1951) : 石狩炭田空知地区東芦別区中ノ沢流域調査. 地調月報, vol. 2, no. 8.
- 28) 三田正一・小島光夫・佐々木実(1961) : 石狩炭田空知地区東芦別区域地質図. 地調日本炭田図VI.
- 29) 本島公司・牧野登喜男・牧 真一(1959) : 北海道石狩炭田夕張地区炭田ガス予察報告. 地調月報,
vol. 10, no. 2.
- 30) NAGAO, T. (1942) : Two Tertiary and Cretaceous Crustacea from Hokkaido, Japan. *Jour. Fac. Sci. Tohoku Imp. Univ., Ser. 4, vol. 2, no. 1.*
- 31) 根本忠寛・三木杉己代治・水口文作(1942) : 10万分の1地質図幅「登川」, および同説明書. 31p., 北海道工業試験場地質調査報告, no. 5.
- 32) 長尾捨一・小山内熙・酒匂純俊(1954) : 5万分の1地質図幅「大夕張」, および同説明書. 北海道開発
庁.
- 33) 大立目謙一郎(1950) : 夕張炭田夕張地方の地質構造, 特に其の堆し被せ構造に就いて. 北海道地下資
源資料, no. 4.
- 34) 大原 隆(1966) : 夕張炭田西縁の中部第三系の層序と構造. 千葉大学芸学部紀要, vol. 4, no. 4.
- 35) 大西 弘・小倉二郎・井上正昭(1963) : 幌内層の生物層序学的研究 (とくに大夕張地域の幌内層の分
帯について). 鉱山地質, vol. 13, no. 62.
- 36) 大瀬知雄・小笠原謙三(1959) : 北海道空知炭田赤平. 歌志内付近の下部貝貝層と羊歯層について. 新
生代の研究, no. 29.
- 37) 佐川 昭(1972) : 紅葉山層の層位について. 北海道支所講演要旨録, no. 23.
- 38) 佐々保雄(1956・A) : 北海道古第三系に関する諸問題. 有孔虫, no. 6.
佐々保雄(1956・B) : 日本における白堊系・第三系境界問題(討論). 有孔虫, no. 6.
- 39) 佐々保雄・田中啓策・秦 光男(1964) : 5万分の1地質図幅「夕張」, および同説明書. 北海道開発庁.
- 40) 斎藤林次(1953) : 赤平付近登川層基底の堆積環境について. 鉱山地質, vol. 3, no. 10.
- 41) 斎藤林次(1955) : 幌内層に関する一考察 (1, 2). 北海道地質要報, nos. 28, 29.
- 42) 坂倉勝彦(1954) : 石狩炭田の造構造史について (1, 2). 鉱山地質, vol. 4, no. 14.
- 43) SATO, S. (1963) : Palynological Study on Miocene Sediments of Hokkaido, Japan. *Jour. Fac. Sci. Hokkaido Univ., vol. 12, no. 1.*
- 44) 沢田秀徳・小島光夫(1952) : 北海道石狩炭田空知地区東部芦別区ノカナン地域地質調査. 地調月報,
vol. 3, no. 2.
- 45) 柴岡道夫(1957) : 炭層及び Cyclothem の生成. 北海道鉱業会誌, vol. 3, no. 1.
- 46) 清水 勇(1951) : 北海道空知地区砂川, 一の沢地区調査報告. 地調月報, vol. 2, no. 11.
- 47) 清水 勇・他 2名(1956) : 5万分の1地質図幅「上芦別」, および同説明書. 北海道開発庁.
- 48) 清水 勇・久保恭輔(1952) : 空知炭田赤平町豊里地区調査速報. 地調月報, vol. 3, nos. 4, 5.

- 49) 下河原寿男(1963)：夕張炭田の形成とその地質構造の発展. 石炭地質研究, 5集, 北海道炭鉱技術会地質部会.
- 50) 下河原寿男・手島 淳(1950)：夕張炭田の幌内層と若鍋層第三頁岩帯について. 炭鉱技術, vol. 5, no. 9.
- 51) 下河原寿男・手島 淳(1961)：紅葉山層の層位学的位置. 地質学雑誌, vol. 67, no. 786.
- 52) 下河原寿男・手島 淳・本田仁麿・岩堀正二郎(1961)：空知炭田芦別地区の幌内層と夕張炭田の幌内層との対比. 釧山地質, vol. 11, no. 48.
- 53) 須貝貫二(1951)：石狩炭田空知地区歌神付近調査速報. 地調月報, vol. 2, no. 9.
- 54) 須貝貫二(1953)：石狩炭田空知地区(空知炭田)井華新歌志内礦における石狩層群函淵砂岩層間の不整合および石狩層群基底の耐火粘土層について(予報). 地調月報, vol. 4, no. 4.
- 55) 菅原通敬(1966)：石狩炭田中部奔別断層周辺の地質構造. 釧山地質, vol. 16, no. 1.
- 56) 鈴木 醇(1953)：5万分の1地質図幅「深川」、および同説明書. 44p., 北海道開発庁.
- 57) 鈴木 守・渡辺 順・春日井昭(1964)：5万分の1地質図幅「美瑛」、および同説明書. 26p., 北海道開発庁.
- 58) 高尾彰平(1952)：石狩炭田(特に夕張炭田)における幌内層の層序と地質構造に関する研究. 石炭地質研究, 2集, 北海道炭鉱技術会地質部会.
- 59) 田代修一(1951)：石狩炭田の地質構造に関する一考察. 石炭地質研究, 1集, 北海道炭鉱技術会地質部会.
- 60) 田中啓策(1959)：石狩炭田空知背斜地域の白堊系, とくに上部蝦夷層群の堆積について. 地調月報, vol. 10, no. 12.
- 61) 棚井敏雅(1955)：本邦炭田産の第三紀化石植物図説, I. 初期および中期中新世植物群. 地調報告, no. 163.
- 62) 手島 淳(1954)：夕張炭田平和附近における夕張層内の堆積小輪廻について. 地質学雑誌, vol. 60, no. 709.
- 63) 手島 淳(1955)：幌内層の研究(その1)一特に幌内層中の大型化石の量的扱いによる分帯について. 地質学雑誌, vol. 61, no. 713.
- 64) 手島 淳(1958)：幌内層の研究(その2)夕張炭田中部の幌内層一幌内層化石の東西方向の性状, および東方同層欠除部の推定一. 地質学雑誌, vol. 64, no. 748.
- 65) 堤 正俊(1963)：空知炭田芦別地区における石狩層群の堆積環境に関する研究. 釧山地質, vol. 13, no. 60.
- 66) 堤 正俊(1964)：空知炭田芦別地区の地質構造に関する研究. 釧山地質, vol. 14, nos. 65-66.
- 67) YABE, H. (1951・A)：Stratigraphical Relation of the Poronai and Ishikari Groups in the Ishikari Coalfield, Hokkaido. *Proc. Jap. Acad.*, vol. 27, no. 9.
- 68) YABE, H. (1951・B)：Major Geological Structure of the Ishikari Coalfield, Hokkaido. *Proc. Japan, Acad.*, vol. 27, no. 10.
- 69) YABE, H. (1955・A)：The Second Discovery of Graphularia-like Bodies from the Tertiary of Japan. *Proc. Jap. Acad.*, vol. 31, no. 5.

70) 矢部良克(1955・B)：5万分の1北海道地質図幅札幌24号「大夕張」(昭和29年刊)の読図. 北海道地質要報, no. 28.

71) 吉田 尚・神戸信和(1955)：5万分の1地質図幅「幾春別岳」, および同説明書. 北海道開発庁.